

下市町教育委員会だより

教育委員会から町民の皆様への情報通信



令和4年9月1日 第26号
奈良県下市町教育委員会
教育長 小谷 隆男 発行

下市あきつ学園校章が最終決定 ～児童・生徒の投票により～



【古事記より】昔、雄略天皇が「阿岐豆野(あきづの)」で狩りをしていたとき、しず織り(麻を染めた織物)を巻いた椅子に座って獲物を待っていた。そこに猪が現れたので立ち上がると、ふいにあぶが二の腕に噛みついた。すると、そのあぶを、あきつ(トンボ)が素早くわえて飛び去って行った。虫でさえも大王には従順なことである。汝の功績は残される。この国は秋津(あきつ)島と呼ばれるのだよ。

右 上の訳文は、雄略天皇が狩りに出た時のエピソードです。雄略天皇は第21代天皇であり、考古学的に実在がほぼ確定している最初の天皇とされています。この「阿岐豆野(あきづの)」がどこにあったのか。これについては色々な説があり、下市も有力視される場所のひとつです。下市は昔から「秋津野」と呼ばれていたからです。下市中の校章「とんぼ」はそれが由来です。

一 方、下市小の校章は「さくら」です。由来は不明ですが、尋常小学校からの流れでしょうか。この2つのデザインを融合して、下市あきつ学園の校章は新しく生まれました(左上)。公募による3つの優秀作品の中から、児童・生徒の投票によって決定しました。

こ の校章の下、これから多くの卒業生がトンボのように大空へ羽ばたいていくことになるのだと思うと、下市町の未来とともに、とても楽しみです。

新しい校章デザインの意味

- ★ 桜の花びらの上に、折り紙のトンボ。(小と中の融合)
- ★ 大空をイメージするさわやかな青色。

* なお、校歌については、2学期に児童・生徒がもう少し歌い込んでから、慎重に投票することになりました。もうしばらくお待ちください。



誰もが過ごしやすい学校をめざして

～ 多様性を認め尊重する ～

- 男であるのか、女であるのか、それ以外は認めないという雰囲気が、少し前まで、私たちの社会や学校の中には普通にありました。テレビなどでも、あからさまにばかにして笑いをする場面などがよく見られました。
- ただ、ここ数年、LGBTへの理解を求める声も大きくなり、生まれついた性の多様性を認めて尊重するという空気が、ようやく日本社会の中でも広がりつつあるように感じます。
- 「体の性」と「心の性」が一致せず、自分の体に違和感をもつ人は少なからずいます。
- また、恋愛対象が同性だと思春期に気付いて苦しむ人もいます。社会全体の8.9%の人が、自分の性に何らかの違和感をもっているようです。



- 新しく開校する下市あきつ学園では、制服をなくし、自由服での登校が可能です。スカートが嫌なら着る必要はありません。
- 下市あきつ学園は、多様性を尊重し個性を認め合う中で、すべての子どもたちが安心して登校できる学校を目指します。

下市中学校音楽部・最後の夏・NHKコンクール銀賞受賞!!

令和4年8月18日(木)、大和高田市文化会館さざんかホールにおいて行われたNHK全国学校音楽コンクール(奈良県コンクール)において、下市中学校音楽部が見事銀賞を受賞しました。1位の金賞は香芝東中、**2位の銀賞が下市中**と天理中でした。課題曲は「Reply」、自由曲は「ほたるこい」でした。少人数とは思えない迫力ある声量と美しいハーモニーで会場全体を魅了する素晴らしい合唱でした。

下市中学校の合唱コーラスは、伝統のある活動で、全国コンクールにまで出場したことのある名門。ただ、現在の部員は4名。少ない人数の中で、一生懸命に地道な努力を重ね、県2位の銀賞という結果は本当に素晴らしいと思います。よくがんばりました。心から拍手を送ります。



開校説明会を11月に開催します

～下市あきつ学園の開校に向けて～

下市こども園、下市小学校、下市中学校の保護者、及び次年度下市町立学校園への在籍を希望する全ての保護者を対象にして、次年度開校する下市あきつ学園の開校説明会を**11月5日(土) 19時から観光文化センター**で実施予定です。当日、新しい学校案内の資料等を配布します。ぜひご参加ください。

現在、校舎の建設は順調に進み、予定通り2月には完成する見込みです。



自由服。だからこそマナーを学ぶ

下市あきつ学園では、自らが考えて服装を選ぶ自由服での登校が可能です。だからこそ…

- ① 社会で必要となる「丁寧な言葉遣い」や「あいさつ」等の「**礼儀**」や「**オフィシャル・マナー**」「**規範意識**」は、しっかりと身に付けさせます。
- ② **成長期の体に害があること**(ピアス、染髪、化粧等)は、健康を守るための指導をします。
- ③ **学習に必要なもの持込**(アクセサリ類、ゲーム機、お菓子、スマホ等)は、授業等に専念する場として、その問題点を考えさせます。

児童・生徒への「生活指導」はこの3点が基本です。

「菊田コレクション」⑥ 西来寺の一字一石経

～千石橋の長久を願った人々～

千石橋南詰に建つ西来寺(山崎・黄檗宗)の床下には、墨で文字が書かれた丸石が大量に安置されています。これは、「一字一石経」と呼ばれ、川原石に経典の文字を書き、地中に埋め、その上に石塔を建て供養・祈願した痕跡です。江戸期に庶民の間で行われました。西来寺の石塔には文政12年(1829年)と刻まれ、その量たるや、5万83点が確認されています。



石を前にする菊田氏と調査員(1995)

さて、それほどまでに民衆が何

を祈願したのか。それは、大橋(今の千石橋)の長久と往来の安全でした。この橋がなければ下市の繁栄はない。思いの強さを感じます。菊田氏は、その思いを感じながら、5万点すべての石と文字を調査し書き写しました。



▼^{いんげん}隠元和尚をご存じですか?下市町・山崎にある西来寺の扁額(寺門にある寺名の額)は隠元和尚の筆跡です。直筆は珍しく、町の文化財として指定されています。▼^{せいらいじ}黄檗宗の開祖として有名ですが、それよりも名前の通り^{おうばく}インゲン豆が有名です。▼スイカ、タケノコ、レンコンも、隠元和尚が日本に持ち込んだそうです。おかげ様で美味しくいただけます。

【お知らせ】給食費無償

小・中・園の2・3学期の給食費については、町の判断により、コロナの交付金を当てて無償といたします。